

サカ、ハカ、バカ

～ねんりんピック長崎大会に参加して～

群馬惑惑倶楽部 丸山 徹

ねんりんピック長崎大会なのになぜか佐賀空港に着いた群馬県選手団を乗せたバスは、高速道路ではなく有明海沿いの一般道を走ったので、ムツゴロウが跳ねているはずの干潟に何隻もの船が干上がっているのを見ることができ、お陰様で干満差が6mもあることを実感することができた。鹿島市あたりの海岸近くの海はほとんど海苔の養殖場で、国道沿いにはカキ小屋と書かれた看板も目立っていた。メンバーのSさんは帰りにここに寄ってカキを堪能するのだそうだ。いいなあ。

さらに諫早湾に堤防を築いて干拓することが以前問題になったので、その後はどうなっているのか写真を撮ろうとしていたら、なんとバスはその堤防の上を通過したのだ。まだ干拓されていない内海が夕陽に輝いて美しかったが、たくさんの水門がまるでギロチンのように並ぶ様は、縦に見ると人間によって操作される心のないロボットの行列のように見えた。漁業関係者をはじめ多くの反対者がいるのがよくわかった。翌日の開会式後の交流会場に干拓の意義を説明するブースがあって話を聞いたが、「多くの農産物が採れるようになったことをマスコミは流してくれない」と嘆いていた。他人ごとに聞こえてしまうかもしれないが、とても難しい問題だと思った。



翌朝小浜温泉前の海辺に散歩に出ると、各旅館から排出される温泉の白い煙があちこちに上がっていた。ふとその並びに葬祭場があるのに気が付いた。葬儀のある日には別の白い煙が上がるのだろうか。

開会式が行われる諫早トランスコスモスタジアムは大会参加者約10650人をグラウンドに整列させられるほど巨大な競技場で、その後1万人がスタンドに上がってもまだスカスカだったので、ワールドカップの会場に招致できそうに思えた。常陸宮妃殿下や鈴木大地スポーツ

庁長官も出席しあいさつされるほどの大会なのだ。大人数で踊ったマスゲームも見事だった。

入場行進のさいに吹奏楽団により大ヒット曲「長崎は今日も雨だった」や長崎県出身の福山雅治の「家族になろうよ」など長崎県に関係のある曲が多く演奏されていたが、私がファンクラブに入っているさだまさしは「精霊流し」など暗い曲が多いのでさすがに演奏されないだろうと思っていたら、彼には珍しく元気な曲の「長崎シティセレナーデ」が流れたときは思わず涙があふれてきました。そして彼の「がんばらんば」も演奏されていたが、この「がんばらんば」は体操になっていて、長崎県民はみな学校で踊ったらしい。実際、式後の交流会場で実演指導され、私もSさんと一緒に座ったままが明日のためのストレッチ代わりに何度も踊った。